

## 会 議 録

会議の名称	令和元年度 第2回戸田市保健対策推進協議会
開催日時	令和2年2月13日(木) (午後2時00分～午後3時00分)
開催場所	戸田市福祉保健センター 講習会室1
出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>埼玉県立大学教授：中谷 直樹 蕨戸田歯科医師会：板橋 裕          蕨戸田市医師会：早船 直彦 戸田市薬剤師会：成塚 康之          戸田市社会福祉協議会：田中 庸介 戸田市商工会：金子 秀一          市 民 委 員：鈴木 雅江 市 民 委 員：今西久美子</p>
欠席者	<p>埼玉県南部保健所：筑波 優子          戸田市食生活改善推進委員会：松田 素子          戸田市町会連合会：稲垣 茂          市民委員：金子 亜津紗</p>
事務局	<p>福祉部：久川部長          福祉保健センター：篠原所長、嶋田課長、渡辺課長、高屋課長、小池主幹          岡本主幹、工藤主幹、矢作副主幹、荒木主事、及川主事</p>
傍聴人	なし
議題	<p>(1) スマートウェルネスシティの推進について          (2) 令和元年度第3次戸田市健康増進計画・第2次戸田市食育推進計画の          評価について          (3) 「朝食摂取等に関する職員アンケート調査」の結果について          (4) 新型コロナウイルス関連肺炎への対応について          (5) その他</p>
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第、委員名簿</li> <li>・スマートウェルネスシティ (資料1)</li> <li>・令和元年度第3次戸田市健康増進計画・第2次戸田市食育推進計画における3つの重点項目等達成のための事業評価一覧 (資料2)</li> <li>・朝食摂取等に関する職員アンケート調査結果 (資料3)</li> <li>・第3次戸田市健康増進計画・第2次戸田市食育推進計画リーフレット</li> <li>・新型コロナウイルス関連肺炎への対応について (資料4)</li> </ul>

(会議発言の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p><b>■次第1 開会</b></p> <p>本日の出席委員数は、12名中、出席8名、欠席4名、本協議会条例第6条第2項により本協議会の会議は成立したことを報告する。</p> <p>金子委員欠席のため、委嘱状交付式は省略とする。</p>
福祉部長	挨拶
会長	<p><b>■次第2 会長挨拶</b></p> <p>挨拶</p>
会長	<p><b>■次第3 議題</b></p> <p><b>議題(1) スマートウェルネスシティの推進について</b></p> <p>議題(1)について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料1により説明を行う。)</p> <p>スマートウェルネスシティ推進の経緯についてだが、戸田市版スマートウェルネスシティ構想の策定は市長公約にもあったものでもあり、市長自ら情報収集を行ってきた。戸田市は、平成31年1月にスマートウェルネスシティ首長研究会に加入し、今年度は調査研究を行ってきた。</p> <p>スマートウェルネスシティとは、そこに暮らすことで健康になれる街を指し、ここでいう『けんこう』とは健やかに幸せになれると書いて『健幸』になれる街のことをいう。身体面の健康だけではなく人々が生きがいを感じ、安心・安全で豊かな生活を送れることを意味する。健康であることは、個人・社会の双方に生きがい、豊かな生活、医療費の削減などのメリットがある。</p> <p>スマートウェルネスシティ実現のためには、公共交通インフラの整備、健康医療データ分析、総合的エビデンスに基づく客観評価、健康増進インセンティブによる住民の行動変容促進(ポピュレーションアプローチ)、ソーシャルキャピタル(社会的なつながり)の醸成と、4つの要素が重要である。</p> <p>高齢化、人口減少が進んでも地域住民が健康であるためには、生活習慣病や寝たきりの予防が重要であり、この実現にはポピュレーションアプローチによって、地域住民全体の日常の身体活動量を増加させることがカギとなっている。各自治体の保健センターなどでは、健康教育事業を行っているが、このような申込参加型教室は、元々健康意識の高い人が参加する傾向があり、住民全体の健康意識や身体活動量を増加することは難しいという現状がある。最近では、美的景観の良い地域に住んでいる人やソーシャルキャピタルが高い地域ほど健康度が高いなど、街の構造と健康の関係について様々なデータが出てきている。海外の成功事例や最新の研究成果に基づいて、そこに住んでいるだけで歩いてしまう、歩き続けてしまう、そういった街づくりを研究しようというのが、戸田市の加入したスマートウェルネスシテ</p>

	<p>イ首長研究会である。</p> <p>海外におけるスマートウェルネスシティのお手本として、ドイツのフライブルク市は、中心街地には車を入れない政策があり、歩くことを推奨している。こういった政策は、ヨーロッパで広まりつつある。</p> <p>スマートウェルネスシティ首長研究会の事務局長である久野譜也筑波大学教授は内閣府、国土交通省、スポーツ庁などの委員の公職も務めており、スマートウェルネスシティ首長研究会の研究結果や考え方は、国にも多く取り入れられている。</p> <p>今年度、福祉保健センターでは、スマートウェルネスシティの調査研究を行うこととして、茨城県取手市、静岡県三島市の二つの自治体を視察した。また、久野教授を招いて、スマートウェルネスシティについての講演会も実施した。先進自治体への視察を種々検討した結果、来年度は、戸田市の特徴や強みを洗い出して、戸田市版スマートウェルネスシティの構想を具体的に立てていくことが必要だと考えている。スマートウェルネスシティ構想には、公共交通インフラの整備やソーシャルキャピタルの醸成など重要な要素があり、保健部門だけでは推進していくことが難しく、ハード面の整備も一緒に推進していくために、戸田市健康なまちづくり推進庁内会議において、都市整備部の都市計画課、道路河川課、環境経済部のみどり公園課が新たに委員として加わり、庁内会議の中でスマートウェルネスシティについてどのように進めていくか、来年度以降検討していく。</p> <p>本協議会委員においても、戸田市版スマートウェルネスシティの考え方をご理解いただき、今後どのような取り組みを行っていくか意見をいただけたらと思う。</p>
会長	<p>来年度以降、スマートウェルネスシティというものを戸田市で考えていくことについて、色々と意見をいただきたい。</p>
委員	<p>ポピュレーションアプローチとしては、例えば喫煙率を下げるために、煙草を吸っている人たちに直接的にやめろと言うよりも、煙草税を上げたり、灰皿を撤去したり、テレビCMを減らしたり等、市民全員に対してのアプローチをする取り組みがより効果的だと言われている。</p> <p>戸田市民に対しても、例えば、歩道を作ったり、大きな公園を作ったりして、全体的に歩くような街にしたいということである。今後はデータも取り入れ、客観的な評価を入れて分析していくことを検討しているとのこと。ご意見、ご質問は？</p>
事務局	<p>私もスマートウェルネスシティ講演会に参加して、こういう考え方もあるのだと驚いた。健康でいることは、社会が良くなることにつながるのだとわかった。今後もスマートウェルネスシティという構想について、講演会などで聞く機会があったら良いと思う。</p> <p>質問なのだが、海外におけるスマートウェルネスシティのように、車が市街地に入っていけなくなった場合、足が悪い人は車が無くても行けるのだろうか？</p>
事務局	<p>講演会については、準備中ではあるが、来年度以降も令和元年7月6日の講演会と同様のものを検討している。職員研修も兼ねたような形で開催し、より多くの人</p>

	<p>に理解を深めてもらうために企画をしている。</p> <p>足に障害を持っている人などに対しては、トコバスを繋げていくなども一つの手法として考えている。例えば、大きな話として、出来るだけ沢山の人が“歩いてしまう”仕掛けを考えている。各公園に地域の芸術家たちがオブジェを展示し、定期的に入れ替えもして、それを見に行きたくて歩く人が増えるのではないか、というような保健部門や福祉部門では想像もつかないアイデアを出していくために、健康なまちづくり推進庁内会議では、建設部門の職員も入っていることから、ハード・ソフト両面を踏まえトータルで考えていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p><b>議題（２）令和元年度第３次戸田市健康増進計画・第２次戸田市食育推進計画の評価について</b></p> <p>議題（２）について事務局より説明をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p>（資料２により説明を行う。）</p> <p>第３次戸田市健康増進計画・第２次戸田市食育推進計画の推進においては、議題１で述べたように、スマートウエルネスシティを念頭に置いて全庁的に取り組んでいくものである。各課で展開している事業が、市民の健康に繋がるものと考えている。</p> <p>資料２は計画の重点項目である運動・食生活・喫煙の３つの分野及びその他の分野に係わる事業について、関係各課で取り組んだ内容及び評価についてまとめた。今年度新たな事業や既存事業において工夫した点については、資料に下線を引いてある。この協議会では、福祉保健センターが実施した事業の一部について、紹介したい。</p> <p>番号１では、運動分野における新しい事業として、埼玉県コバトン健康マイレージという県の事業に戸田市は参加している。これは健康づくりと生きがいがづくりの推進、ひいては健康寿命の延伸へと繋げることを目的として、市民に歩く習慣を身に着けていただくものである。本市の課題である週２回以上身体を動かす頻度の少ない５０代男性や、健康無関心層の市民の参加を促すことを目標とした。工夫点としてはＩＣＴを取り入れたり、継続意欲を維持できるようにインセンティブを工夫した。その結果、５０歳から６０歳未満の参加者が最も多いという結果につながった。本市の課題である週２回以上身体を動かす頻度の少ない５０代男性を含む働く世代に、働きかけられたと思う。</p> <p>次に、番号１３では、食生活の分野における今年度初の取り組みとして、駅頭キャンペーンを行った。朝の通勤時間帯にのぼり旗を駅に設置し、駅を行き交う人に啓発品を配布しながら朝食摂取勧奨を約７００人に対して行った。福祉保健センター業務の中では日頃接することの少ない学生や若い男性にも声をかけることができた。</p>
<p>会長</p>	<p>埼玉県コバトン健康マイレージには、５０歳から６０歳未満というメタボリックシンドロームになりやすい年齢層に参加してもらったが、より若い集団として４０</p>

事務局	<p>代は焦点を当てていないのか？</p> <p>アンケート調査をしたところ、50代男性が歩く習慣が一番低かったため、そこに焦点を当てている。そのための工夫した点としては、30代も働き盛りということで、30歳と50歳に個別で参加勧奨通知を出していることも影響があるかと思われる。40代に焦点を当てないというわけではない。</p> <p>また、他の要因としては、スマホアプリの利用が思っていたよりも多く、窓口申し込みの手間が省けたのもあるかもしれない。</p> <p>結果として、50代の参加者が一番多かった。50歳から60歳未満が26.6%、40歳から50歳未満が23.5%と、どちらの年代も比較的高い参加率だった。</p>
委員	<p>私も参加しているが、夫婦で楽しく参加でき、共通の話題もできた。私の周囲の方々にも啓発ができたと思う。11月には戸田市だけのプレゼントがあり、結構頑張れた。万歩計をかざす場所に列もできており、「当たりましたか？」と聞くと「当たらないよ」など知らない人との会話の糸口として持つことができた。</p>
会長	<p>スマートウェルネスシティの議題でも出た“インセンティブ”という言葉が出てきたが、モチベーションを上げるために何か景品をあげるというのがより健康に繋がっていくという研究結果もあり、予算との兼ね合いもあるが、とても重要である。</p> <p>駅頭キャンペーンで啓発品を配布し、700人にアプローチができたことについて、何か反響はあったか？</p>
事務局	<p>若い人や年配の人の反応を聞くことができたという点が良かった。</p>
会長	<p>スマートウェルネスシティの“ソーシャルキャピタル”とはそういうものに繋がっており、戸田市では、市の職員が一生懸命頑張っているという熱意が、社会のネットワークとなってより健康になっていく。ぜひこういう取り組みは続けてほしい。</p> <p><b>議題（3）「朝食摂取等に関する職員アンケート調査」の結果について</b>  議題（3）について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料3により説明を行う。）</p> <p>令和元年10月17日から31日までの2週間、庁内のグループウェアである職員ポータルで、朝ごはんに関する食習慣や食事のバランスなどについて、アンケートを行った。5分程度で回答できる質問とした。調査対象者は、再任用職員を含む常勤全職員921人で、403人が回答、回答率は43.8%である。回答した年代は、30歳代が一番多く、次いで40歳代であった。回答率が低かった要因は、パソコンを利用した回答方法だったため、保育園など1人1台のパソコンがなく、1台を数人で使用している職場などは自分の時間で都合が良いときに操作ができない</p>

職員もいたからではないかと分析している。集計結果については、要点を抜粋して説明する。

問6「あなたは朝食をどの程度食べているか」については、「毎日食べている人」が76.4%であった。戸田市食育推進計画の目標指標である「毎日朝食を食べない人」の割合は、「週に数日食べている・ほとんど食べない」の合計で表しており、目標指標は20%となっているが、本市職員の「毎日朝食を食べない人」の割合は23.5%の結果となり、目標指標より少し高かった。

性年代別朝食摂取状況では、朝食欠食率は20歳代男性が43.5%と最も高く、次いで20歳代女性が35.7%と高い結果となっている。

問9「あなたは朝食に、主に何を食べているか」については、主食を食べていると回答した人は81.9%と一番高く、次いで牛乳・乳製品が44.9%、三番目に主菜が37.2%となる結果だった。朝ごはんとしてはほとんどの人が主食（ご飯やパン、麺類、シリアルなど）を食べている。

朝食の組み合わせパターン別朝食摂取状況では、朝食を毎日食べている人と週に数日食べている人の食べ方について比較すると、主食・主菜・副菜の組み合わせ、いわゆるバランスが良いとされている食べ方は毎日食べている人が19.5%、週に数日食べている人が5.3%であり、毎日食べているの方がバランスよく食べている結果だった。

問13「あなたはいつ頃から朝食を食べていないか」については、大学生等及び社会人以降が76.3%と、親の手から離れたと思われる年代から欠食の習慣がついたと考えられる。しかしながら、小学生から朝食を食べる習慣がなかった人もいるため、子どものころからの周知が大切であると考えられる。

問15「あなたは、どのくらいの頻度で野菜料理（漬物は除く）を食べるか」については、日に一回が32.0%と最も高く、次いで日に二回以上が30%だった。戸田市食育推進計画の目標指標である副菜（野菜料理）を毎日食べている人の割合は日に一回と日に二回以上の合計で表しており、職員の副菜（野菜料理）を毎日食べている人の割合は62%だった。性年代別野菜料理摂取状況を見ると、男性より女性の方が野菜料理の摂取頻度が高く、女性は年代が上がるにつれて野菜料理の摂取頻度が高くなる傾向だった。男性については野菜料理の摂取頻度が最も高いのは30歳代だった。朝食の摂取状況別に野菜料理の摂取頻度を表したものでは、野菜を日に一回以上食べている割合は朝食を毎日食べている人が68.9%、週に数日食べている人が36.9%であり、朝食を毎日食べているの方が野菜料理の摂取頻度が高い結果であり、好ましい食行動をとっていることがわかった。

問17「あなたは、食育に関心があるか」については、食育に関心がある・どちらかと言えば関心があると回答した人は78.2%だった。朝食を毎日食べている人が食育に関心があると回答した人は81.8%だった。朝食を週に数日食べている人は66.6%、朝食をほとんど食べない人は65.8%と、朝食を毎日食べているの方が朝食を欠食している人より食育の関心割合が高い結果だった。

今回の職員アンケートでは、朝食の欠食率について平成29年に実施した戸田市健康づくりに関する市民アンケート22%より若干高い結果であり、好ましい状況

	<p>とは言えなかった。しかしながら、朝食を毎日食べている人は朝食を欠食している人に比べ、食事をバランスよく食べることや野菜料理の摂取頻度が高いこと、食育の関心度が高いことなど、市民アンケートの結果と同様の数値結果が得られた。</p> <p>今回の職員アンケートの結果を受け戸田市民の食育推進に向けて、まず職員自らが食育の知識を深め市民に啓発していくことが重要と考え、職員への食育啓発として、今回の食育アンケートの結果を踏まえながらA4サイズの朝食摂取勧奨チラシを各課に配布する予定である。</p>
会長	<p>アンケートの回答率が43.8%というのは、パソコンを操作する時間を取るのが難しかったからと説明があった。一般的に、こういったアンケートに回答しない人は食べない人が多く、全員の回答があった場合、今回の結果はさらに低くなる可能性がある。議題3について質問等はあるか？</p>
委員	<p>朝食欠食者は東京など遠方への通勤のため、朝が慌ただしい人が多いと聞いたことがある。遠くへ通勤している人が数字を下げているイメージがある。戸田市職員は遠くから通勤している人が多いのか？</p>
事務局	<p>正確な数字はわからないが、市内在住者は半数以下である。</p> <p>通勤のため時間がない、という時間だけが原因ではないことが、今回のアンケートでわかってきた。幼少の頃から食べていないという習慣という側面もあることがわかり、対策を考えなくてはいけない。</p>
委員	<p>何が原因なのだろうか？</p>
事務局	<p>乳幼児健診などで、朝ご飯を食べる習慣がないことがカンファレンスで取り上げられたことがある。忙しい時代になり、お母さんもおばあちゃんから朝ご飯を作ってもらった記憶がない、というケースもあり、それがずいぶん広がってしまったのかと感じる。教育部門と協力しながら、なんとかしていかなくては、とこの結果を見て考えている。</p>
委員	<p>地域によつての差は大きいのではないかと？ たとえば文京区などは朝ご飯を食べているという回答が多い。川口市と比べて差異などは感じられるか？</p>
事務局	<p>健康増進計画のアンケートなどを見ると、やはり戸田市は県平均・国平均と比べると、朝食欠食率が高い。喫煙率、飲酒率も高いが、理由はよくわかっていない。転出入が多いため、単身世帯が多いからなのかなど予測はしているが、実際の確認はできていない。</p>
会長	<p>子育てやスマホの利用時間が長く、その結果、寝るのが遅くなり起きる時間が遅くなってしまふなど、時間がなくて食べられないという要因が戸田市には何かある</p>

	<p>のだろうか？ ぜひ追求し、それを改善していかなくてはと考える。</p>
委員	<p>家族と同居の割合は？ 一人暮らしだと自分で朝ご飯を作る習慣はあまりない。朝ご飯を作ってくれるような家族と一緒にいれば、もう少し改善されるのではないか？</p>
事務局	<p>職員の既婚率は約7割、単身世帯は2割弱である。平成29年度の市民アンケートの調査をした際に、8050世代が朝食を食べていない印象を受けた。作ってくれる人がいないのか、高齢で作るのが大変だからなのかということまでは分析していない。単身だからということもあるかと思うが、そればかりではないかと思う。</p>
会長	<p>未婚・既婚あるいは単身世帯という分け方で朝食欠食率を出してみると、何か傾向が見えるかもしれないので、そういう視点でも分析してみしてほしい。</p> <p><b>議題（4）新型コロナウイルス関連肺炎への対応について</b> 議題（4）について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料4により説明を行う。）</p> <p>国内外の発生状況は令和2年2月10日時点の数字を記載しているが、今現在も増加している。</p> <p>県内の発生状況は、2月11日に1名の患者が発生した。</p> <p>市の対応状況としては、危機管理や消防・医療といった部署を中心として戸田市新型インフルエンザ等対策推進調整会議を開催し、各部署の対応などの情報共有を行った。市民への周知については、厚生労働省のホームページを中心に適宜更新している。また、戸田市の公式アプリ（tocoプリ）も活用して、情報を発信している。ポスター掲示に加え、チラシ配布も行うなど、ホームページにアクセスできない人向けに公共施設に設置している。また、民生委員の見守り訪問と一緒にチラシの配布も行っている。広報戸田市（3月号）においては、南部保健所や埼玉県、または厚生労働省の新型コロナウイルス関連肺炎相談窓口を掲載している。</p> <p>今後の対応については、国から緊急事態宣言が発令された、または本市において患者が発生した場合、市長を本部長とした市対策本部を設置し、国や県等と十分な連携を図りながら、必要な対策を行い、感染拡大の防止に全力で取り組んでいく。</p>
会長	<p>蕨戸田市医師会から、何かコメントはあるか？</p>
委員	<p>戸田市と蕨市には、感染したという報告は受けていない。蕨市に1名、1月に中国から帰国した人はいるが、検査については知らされていない。なお、湖北省から帰ってきた人か、それに濃厚接触した人以外は検査できないということになっている。</p>



	<p>肺炎患者が散発した場合は、市から国に対して、保健所を通して検査の要請をしてもらいたい。市内医療機関の連携は取れており、少数でも肺炎患者が出てくれば、すぐに報告があがってくると思う。</p>
会長	<p>蕨戸田歯科医師会から、何かコメントはあるか？</p>
委員	<p>特に情報はない。蕨戸田歯科医師会の中では肺炎を疑われる患者はまだ出ていない。</p>
会長	<p>戸田市薬剤師会から、何かコメントはあるか？</p>
委員	<p>ダイヤモンド・プリンセスに応援に行った場合、応援から帰ってくると周囲に色眼鏡で見られる可能性があり、困っている。</p> <p>ダイヤモンド・プリンセスに乗船している人に対し、医薬品情報依頼（会の薬剤師を派遣し、乗船者がどんな医薬品を使っているかアンケートを取るというもの）が来ていた。</p> <p>現地の状況がわからない。現地の状況が少しでもわかるように、応援には行けるのか？ 応援に行った後どうするのか？ などといった正しい情報が入ることを願う。</p>
会長	<p>潜伏期間もまだわかっていないため、市民も不安であると思う。</p>
委員	<p>埼玉県で一人発生ということに、戸田市なのか？と思った。</p> <p>周囲が追及したくなってしまうため公表できないのだろうと思うが、市民としては気になっている。消毒アルコールやマスクも薬局になく不安なため、早く収束してくれることを願っている。</p>
会長	<p>福祉保健センターは戸田市の感染症対策の中核ということになっており、対応が大変だとは思いますが、ぜひ収束するまで頑張ってもらいたい。</p> <p>事務局から何かあるか？</p>
事務局	<p>マスクは、予防策としては100%ではない。ただ、手洗い・消毒・咳エチケットの意識の高まりのおかげなのか、結果として、インフルエンザなど他の感染症が例年より少ない傾向がある。コロナウイルス対策だけでなく、普段から手洗いは大切である。</p> <p>アルコールによる消毒ができなくても、流水と石鹸でも十分効果があるので手をよく洗ってほしい。</p>
会長	<p>厚労省でもそういったことを周知しており、リテラシー的に広まることを期待している。</p>

事務局	<p>特にご質問等がないので、これで全ての議事が終了した。事務局へお戻しする。</p> <p><b>■次第4 閉会</b></p> <p>以上で令和元年度第2回戸田市保健対策推進協議会を閉会とする。</p> <p>来年度の協議会は7月を予定している。日程の案内と、事前に会議資料をお送りする予定である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--